

フィリピン 日本のアボカド市場に目を向ける

[FreshPlaza](#) 2024年5月28日

フィリピン農業省(DA)は、約1億5千万ドルの市場への参入を目指し、ハスアボカドの輸出を開始するために日本と協議している。フランススコ・ティウ・ラウレル・ジュニア農業大臣は遠藤和也日本大使との会談で、年内の市場アクセスの確保に楽観的な見方を示した。協議は、フィリピン産アボカドを日本に輸入するための植物検疫要件に関する作業計画が概ね合意された段階にまで進んでいる。この進展は、韓国へのアボカド輸出交渉の成功に続き、高価値作物の輸出の可能性を高めるという同省のより広範な戦略の一環である。

ニュースサイト [philstar.com](#) によると、日本のアボカド輸入額は2023年に約1億6千万ドルに達し、現在8つの国際市場にアボカドを輸出しているフィリピンにとって大きなチャンスとなっている。しかし、同国の2023年のアボカド輸出は減少し、前年比30%減の104万トンとなった。

ティウ・ラウレル大臣は、アボカドに加え、主要輸出品であるフィリピン産バナナの競争力強化と日本での市場シェア拡大のため、関税の引き下げを訴えた。また、家禽加工品の輸出を促進するため、日本がフィリピンの鳥インフルエンザの状況を評価する際に地域別の評価を検討する可能性についても議論された。

農業部門は輸出拡大のために日本の支援を求めている

同大臣は日本大使との会談で、フィリピンの農産物の日本向け輸出の強化を提唱した。農業省は、フィリピン産バナナの関税引き下げ、生鮮アボカドの市場アクセス、マンゴー輸出の復活、日本への家禽加工品の輸出における地域別評価の可能性を特に取り上げた。

バナナはフィリピンの日本向け主要輸出農産物であり、2020年から2023年までの4年間の合計輸出量は340万トンに達した。農業省は、関税の引き下げにより、日本における定番であるフィリピン産バナナの競争力を高めることができると強調した。2024年1月から4月15日までの日本向けバナナ輸出量は24万1,282トンで、キャベンディッシュ種のバナナが日本市場の大部分を占めている。

出典: [manilastandard.net](#)

海上コンテナ運賃 主要航路のスポットレートが急騰

[FreshPlaza](#) 2024年5月28日

アジア - ヨーロッパ及びアジア - 米国の主要航路で急騰

ドリューリー・ SHIPPING コンサルタンツ社の総合指数は、過去1週間で16%上昇し、前年同期比142%増の4,072米ドル(40フィートコンテナ当たり。以下同じ)に達した。需要の急増は、アジアの悪天候等の物流上の課題や船の欠航と相まって、運賃の高騰を後押ししている。同社のサイモン・ヒーニー氏は、急激な上昇の意外性を強調し、関係する要因が複雑なため、正確な原因を特定することは難しいと述べた。

上海から様々な目的地への運賃は大幅に上昇した。上海 - ロッテルダム間は20%上昇して4,999米ドル、ロサンゼルス行きは18%上昇して5,277米ドルとなった。さらに、ジェノヴァ行きは15%上昇して5,494米ドル、ニューヨーク行きは13%上昇して6,463米ドルとなった。これに対し、ロッテルダムからニューヨーク、ロッテルダムから上海など、一部の路線の料金はわずかな変化に留まった。

ドリューリー社は、今年は輸送能力が既に100万コンテナ分(20フィートコンテナ換算)追加され、さらに月平均25万コンテナ分(同)増加することから、現在の運賃の急上昇は一時的な状況であると予想している*。また、在庫の補充や繁忙期の前倒しが需要に与える潜在的な影響についても指摘している。アジアの港湾における操業上の問題は、船舶の不足とそれに伴う欠航によって悪化し、状況をさらに難しくしている。ヒーニー氏は、一部の輸入業者は、潜在的なサプライチェーンの混乱の影響を軽減するために、在庫に余裕を持たせている可能性があるとし唆している。(*: 出典元の記事を参考に一部修正しました。)

出典: [container-news.com](#)